

勝林寺寺報

「無財の七施」——何を持たなくとも、手ぶらで出来るほどこし七つ。そのうち今日は「身施(己舟)」——からだで行うほどこしです。

「からだ」ということですから、具体的には、手や足や口を動かしてするほどこしの行為、身<sup>からだ</sup>の仕業のうえに表れるほどこしであります。」と云うとあなたは、「そりやあ無理です。人へのほどこししたいのは山々ですが、私は五年も前から手も自由に動きません。足も役に立ちません。心はあつても身でする施しなど出来よう訳がありません」。

「そうでしょうか。では、ちょっと、親鸞さまの次のうた（ご和讃）を聞いてみようではありませんか。ちよつと断つておきますが、このご和讃、親鸞さんが七八十のお年となられてからの和讃です。七  
仏慧功德をほめしめて  
十方の有縁に聞かしめん  
信心すべに得ん人は  
つねに仏恩報すべし。

如来さまのおはたらきナムアミダブツを  
高らかに称え、讀えて、縁ある人々に聞  
かせましよ。この身のままを如来さま  
のお命に生まれかわらせてもらうた者な  
らば、そのよろこび、そのご恩を、称名  
念佛申すことで報いさせていただきまし  
よう。

足で私の煩惱のただ中に迫り来て、手で撰取不捨と抱き取り、口でナムアミダブツと呼んでいて下さる如来さまです。その如来のはたらきの中にある私と知らしていただきたい以上、どうしてジツとしておられましょか。一仏慧功德をほめしめて、十方の有縁に聞かしめん。」

を子や孫に、縁ある人に伝え聞かせる。そこで、私たちに出来る仏恩報謝の「身施」一からだでさせていたぐ施しなのだよ。「大いなるお手伝い」（大行）なのだよと親鸞さまは教えてくださるのです。

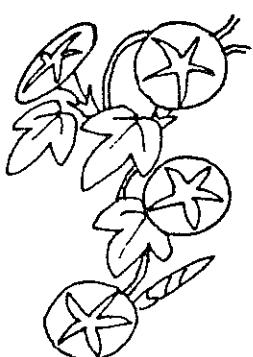
## 兵庫教団 仏教婦人プロツク別研修会に 3月1日



友達をふやせば

地球は広くなる

西本願寺



山田和広ちゃん  
おめでとう

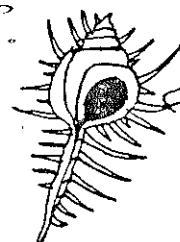
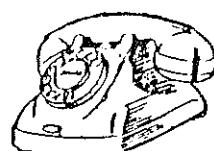
おめでとう

0 7 9 6 5 2 - 5 8 0 • 0

いつでも どこでも だれでも 聞ける  
勝林マテレホン法語

1 11  
1 0 11  
2 0 11

の月三回変わ  
わります。



二十九日	勝林寺子供会
三十日	仏教と医療、福祉の研修会 (京都)
二十八日	田村輝夫氏宅法事
二十九日	前々住職(哲雄)祥月命日
三十日	法光寺盆会説教(赤穂市)
二十八日	みのりを聞く会
二十九日	中央教習(大谷本廟)
二十八日	福富修氏宅法事

8月のよみ



